



2026 年 8 月 6 日

各 位

会 社 名 富士フイルムホールディングス株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長・CEO 後藤 禎一
(コード番号：4901 東証プライム)
問 合 せ 先 コーポレートコミュニケーション部長
吉澤 ちさと
(TEL：03-6271-1111)

ビジネスイノベーション事業の持続的成長に向けた パーシャル・スピンオフを含む戦略的選択肢の検討開始に関するお知らせ

当社は、ビジネスイノベーション事業の持続的成長に向けて、パーシャル・スピンオフ(*1) (以下「本スピンオフ」)を含む戦略的選択肢の検討を開始しましたのでお知らせいたします。

1. 検討の背景

当社は、グループパーパス「地球上の笑顔の回数を増やしていく。」を掲げ、中期経営計画「VISION2030」の下、収益性と資本効率を重視した経営の推進により、当社グループの企業価値をさらに高め、さまざまなステークホルダーの価値(笑顔)を生み出す会社へ進化することを目指しております。そのような方針に沿って、成長領域であるヘルスケア事業およびエレクトロニクス事業を中心に投資を強化し、事業成長の促進に取り組んで参りました。

当社におけるビジネスイノベーション事業は、当社連結売上高の約 35% (ビジネスイノベーションセグメントの割合)を占める主要事業の一つであり、強固な収益基盤と高いキャッシュ創出力を有しております。当社では、同事業の特性を踏まえ、ビジネスイノベーション事業の機動的な意思決定を可能とするべく、本スピンオフを含む戦略的選択肢の検討を進め、更なる成長と企業価値の向上を実現して参ります。

- (*1) 富士フイルムビジネスイノベーション株式会社のもとに関連する事業を集約した後、ビジネスイノベーション事業の持続的成長に資するため、本スピンオフ実行後も、同事業が商号を含む富士フイルムブランドの活用と、富士フイルムグループ各社とのシナジー創出を継続できるよう、当社がその株式の一部(20%未満)を保有し、残りの株式を現物配当(金銭以外の財産による配当)により当社株主の皆様へ分配する方法を想定しています。富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の株式は現物配当に合わせて、東京証券取引所に上場することを目指しています。なお、本スピンオフの詳細については、今後の検討を経て決定いたします。

2. 当社ビジネスイノベーション事業の概要(2026 年 3 月期)

セグメント売上高	11,748 億円
セグメント営業利益	637 億円
主要な取扱い製品	ソリューション・サービス、デジタル複合機、 グラフィックコミュニケーションシステム機材、インクジェット機材等

※当社のビジネスイノベーションセグメントの情報を記載しています。

3. 今後の見通し

本スピンオフを実施する場合は、2～3 年後の実行を視野に、詳細内容の検討を進めます。当該検討の中には、富士フイルムビジネスイノベーション株式会社の株式を上場する市場、税制適格要件の充足可能性等が含まれ、本スピンオフの実行は、証券取引所その他の関係当局、株主の皆様をはじめとしたステークホルダーの承認や認定、許認可等の取得を前提としています。

本件に関して新たに開示の必要性が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

本発表文は証券の売付けの申込み、又は、証券の買付けの誘引若しくは申込みの勧誘を行うものではありません。本発表文は、ビジネスイノベーション事業のパーシャル・スピンオフの検討を開始することを一般に公表するもので、投資の勧誘又はその他の類似行為を行うためのものではありません。米国 1933 年証券法に基づいて証券の登録を行うか又は登録の免除を受ける場合を除き、米国において証券の勧誘又は販売を行うことはできません。

以 上